令和５年度も、校長室から日頃の「雑感」をお届けいたします。昨年度は沢山の生徒の皆さんに校長室に来ていただきお話を伺うことができました。今年度も、感想や談話等の内容を掲載させていただく予定ですので、ご笑覧いただけましたら幸いです。

One for all, All for one.　№70

R5. 9. 2　「ウォーキング」

旭川東部まちづくりセンターが主催する「東光健康ウォーキング」に、本校陸上競技部の皆さんもお手伝いとして参加してきました。「東光スポーツ公園内外の環境美化に努めながら、多世代でウォーキングを楽しむ」と題したこのイベントには、小学生から高齢者まで幅広い世代の方々約６０名が集いました。

準備運動のコーチングを終えたあと、３キロと５キロのウォーキングを楽しみながら正しい歩き方をお伝えしていきます。天候にも恵まれ、自分のペースで歩ききった参加者の皆さんも、さぞ気持ちの良い汗をかいたことでしょう。

地域の方々とのコミュニケーションは、生徒にとっても貴重な体験です。今後も様々な機会を通して、地域に根差す学校になるよう努めてまいります。

One for all, All for one.　№71

R5. 9. 7　「校内研修」

本校では、学校課題の解決や教員の資質能力の向上を目的に校内研修を定期的に実施しています。今回は「『らしさ』を考える」をテーマに、包括的性教育啓発団体 Soil Ｕ代表の 宮坂 舞花 氏を講師にお招きし、ジェンダーアイデェンティティの多様性等についてご講話をいただきました。

数種のワークショップを通して、「らしさ」とは何かについて認識を深め合った後、豊富な資料に基づいて包括的性教育の考え方について懇切丁寧にご説明いただきました。

人権尊重の観点から性を捉え直すことの重要性や今年６月から施行されたＬＧＢＴ法等にも触れながら、思春期への正しい情報の提供や「普通」の概念を問い直すことなど、ウェルビーイングを目指した教育のあり方について学ぶ貴重な機会となりました。

今後も様々なテーマでの校内研修を継続し、時代の趨勢に即した新たな教育のあり方や考え方について理解を含め、生徒への適切な対応を心がけていきたいと思います。

One for all, All for one.　№72

R5. 9. 8　「仏教×ＳＤＧｓ」

８月２３日から３日間、京都西本願寺の隣に位置する聞法会館を会場に、龍谷総合学園が主催する高校生対象の研修会が開催されました。放課後、参加された２年生の皆さんが、その成果報告に校長室を訪れてくれました。

今年度のテーマは「食」と SDG ｓの関わりについてです。

本校のプレゼンは「アイヌ文化における食」と題して、様々な保存食、食が意味するもの、食の大切さ、食を無駄にしない工夫などについて発表しました。

その後、全国から集った関係校の皆さんとともに８つのグループに分かれ、様々な観点から「SDG ｓに配慮したお弁当」をテーマに話し合いを行いました。

参加した 木下 恵斗君は、「全国各地の地域食材を生かした献立や、郷土食と地域文化との深い関わりなどについて話し合いました。魚の皮を使った容器など独創的なアイデアなども飛び出し、地域に根ざす食文化の大切さを改めて感じ取ることができました」と、新鮮な学びに触れた体験を語ってくれました。

高桑 温子さんは、「和洋折衷の食材の中でも、特に宗教に配慮した献立を考え、誰もが食べられるお弁当について話し合いました。ものの見方、考え方、感じ方、価値観がみんな異なり、視野が大きく拡がりました」と、宗教と SDG ｓの関わりから食について考察したとのことでした。

竹内　日葵さんは、「気候変動や環境の変化によって、未来にはなくなってしまうであろう日本各地の食材を出し合い、その食材をなくさないために必要な取組や工夫などについて話し合いました」と、日常何気なく食べている食材を、改めて考え直すきっかけになったとのことでした。

未来に向けた食の課題と真摯に向き合ってきた３名の皆さんからは、とても大きなエネルギーが伝わってきました。また一段と大きく成長した証ですね。

One for all, All for one.　№73

R5. 9. 9　「コース説明会」

コース説明会に、市内及び近郊から多数の保護者並びに中学生の皆さんに参加いただきました。心よりお礼申し上げます。

説明会には授業見学や座談会なども盛り込み、できるだけ在校生との触れ合いの場を数多く設けました。司会進行や誘導なども在校生の皆さんにお手伝いただき、終始和やかな雰囲気で説明会を進めることができました。

身近な先輩の生の声が、中学生の皆さんの関心に少しでもつながってくれれば嬉しいです。

One for all, All for one.　No.74

R5. 9.11　「フィールドスタディー」

1 年生の「総合的な探究の時間」における学習の一環として取り組んでいるフィールドスタディを、今年度は企業訪問型２４社、企業来校型３社のご協力のもと実施することができました。

地域企業への理解を深めることで、「働くことの意義」「人生設計」「業務内容への適合性」「生き方や自己の在り方」などを探究していきます。

現代の職種は実に多種多様で、内容を知る機会を数多く設けることは今後の進路を考える上で極めて重要になります。単なる企業見学にとどまらず、異年齢の方々のアドバイスやワークショップ等を通じて、将来を真剣に考えるきっかけにして欲しいと思います。

One for all, All for one.　No.75

R5. 9.13　「薬物乱用防止」

例年実施している生活安全教室の今回のテーマは「薬物乱用防止」です。昨今、危険ドラッグが若い世代も含め身近なところにまで浸透してきていることが大きな社会問題となっています。知らなかったでは決して済まされない危険薬物の恐ろしさを再認識することをねらいに実施しました。

講師には、各関係団体で重責を歴任されていらっしゃる旭川薬剤師会 嵯城 俊明 氏にご依頼し、「身近に潜む薬物の危険」と題してご講話いただきました。

薬物は、古来より個人のみならず社会や国家にまで影響する恐ろしさを持っていること、心身の健康に及ぼす悪影響は計り知れないこと、薬物勧誘の罠は思っている以上に身近にあること、そして、その危険から自分自身を守るためにどうするべきかに至るまで、視覚映像を併用しながらわかりすく丁寧にお話いただきました。

心に響く言葉や内容に、生徒も改めて薬物の恐ろしさを再認識した様子でした。

また、甘い言葉や勧誘にどう対処すればよいかを、生徒との実演から具体的に示唆していただけたのもとても印象的でした。

「薬物乱用はもはや対岸の火事ではありません・・・皆さんの身近に潜んでいます」という講師の言葉を決して忘れずに、危険な薬物には絶対に関わらないでください！

One for all, All for one.　No.76

R5. 9.13　「テニス部が秋も制覇！」

８月から９月にかけて忠和テニスコートで行われた「秋季テニス大会支部予選」で、男子が夏に続いて団体優勝を果たしました。支部８校が参加したこの大会も４５回を数え、各校が新チームとなっての対戦となりました。

シングルスでは２年生の 今井 朝陽君が優勝、ダブルスでは 今井 朝陽君と １ 年生の 今井 陽貴君のペアーが春の大会に続いて見事優勝を果たしました。

全道大会は１０月初旬に函館で開催されますが、新チームとしてまた輝かしい成績を残してきて欲しいと思います。

One for all, All for one.　No.77

R5. 9.15　「当番校」

高文連上川支部将棋大会の当番校として運営してきました。３校１７名の選手がエントリーし、旭川将棋会館を会場に全道大会を目指した熱い戦いが繰り広げられました。

日本では８冠制覇なるかならないかの話題でもちきりですが、年齢を問わず誰もが親しめるところも将棋の魅力の一つです。中でも先を読み合う心理戦は将棋の醍醐味と言えましょう。

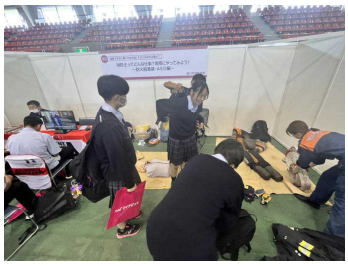
また、将棋を通して培われる記憶力、思考力、集中力は、いかなる時にも必要な力です。

皆さんも、時間のある時に是非覚えてみてはいかがでしょう。私も久しぶりに挑戦してみたくなりました。

One for all, All for one.　No.78

R5. 9.20　「進学ライブ未来ビュー」

総合的な探究の時間の一環として、１年生対象の進学ガイダンスを大雪アリーナで実施しました。この取組は、地域課題を題材にしたテーマを通して、今の「学び」が将来の「仕事」とどうつながっているのかを体験活動を通して知ることがねらいです。



会場には、道内の大学、短大、専門学校の個別ブースがいくつも設けられ、個々の希望に応じた進学相談や各学校での研究内容と社会貢献との関りについて学びました。

また、地元企業の仕事を体験できる体験型コーナもあり、「健康で安全に暮らせる地域にするために」「多様な人々が共に生きる地域であるために」といった課題に対するヒントを体験を通して知ることができました。

８月には事前指導も行っており、今回の実体験から学びと仕事との関りについて理解を一層深めたことでしょう。次はそれを自分の進路希望にどう結びつけていくかですね。

One for all, All for one.　№79

R5. 9.20　「生徒会行事」

前期から後期に向け、生徒会総務役員も引き継ぎがなされます。新たな立候補者の意気込みと、その人柄を伝える応援弁士による立会演説会が行われました。

学校の歴史は、教師と生徒とが一緒に創り上げていくものです。特に生徒会行事は生徒主催で行われ、生徒の意向が色濃く反映されます。

各立候補者の言葉には、学校づくりの一翼を責任をもって担おうとする強い意志が感じられました。

生徒会行事にとどまらず、全生徒が日々充実した高校生活を送れるよう、教育活動全般にわたって深く関わってくれることを期待しています。

One for all, All for one.　№80

R5. 9.21　「座談会」

新しい後期生徒会総務役員の皆さんから今後の抱負を伺いました。

新会長の２年 木下 恵斗君は「持続可能に発展し続ける組織体系を築くためにも、生徒間の意見交換はもちろん、先生方との話し合いの場を数多く設けたいです」と話してくれました。

副会長の２年 髙桑 温子さんも「生徒の声を数多く反映できるよう、電子版の目安箱を作る予定です」と会長の意向を後押しします。

同じく副会長の２年 竹内 日葵さんは「イベントを成功させるだけでなく、３年生の思い出になるような催しも検討していきたい」と構想を語ってくれました。

新たにメンバーに加わった書記長の２年 大畑 寛人君、書記次長の１年 坂井 弥月君、会計の２年 高松 悠雅君と１年 武田 望来さんの４名は「生徒会総務役員の皆さんのエネルギッシュな活動に感化され、自分も在校生の皆さんに少しでも貢献できたらという思いから立候補しました」と頼もしい言葉が返ってきました。中学校での生徒会経験者や前期龍谷祭のアシスタント経験者も居り、強力なメンバー４名が加わった印象です。

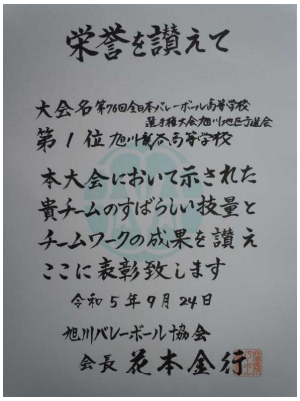
話を聞きながら感じたことは全員が意欲的であり、積極的に学校づくりに関わろうとする姿勢です。フレッシュな面々に大いに期待したいです。

One for all, All for one.　№81

R5. 9.27　「女子バレー、第１位」

嬉しいニュースが飛び込んできました。今大会で７６回目を数える全日本バレーボール高等学校選手権旭川地区予選で、女子バレー部が念願の１位に輝きました。

毎試合ごとに力をつけている女子バレー部、練習では強いサーブと守りに力点を置いて技術を磨いてきました。その練習の成果が存分に発揮された大会であったことと思います。



夢の舞台に向け、１１月中旬から札幌きたえーるで始まる全道大会への大きなステップになることでしょう。

部員数も年々増加傾向にあり、厳しい練習の中にもアットホーム的な雰囲気を持つことが人気の要因になっているようです。

また、日頃の礼儀作法や生活態度も模範的であり、部活動を通して培う人間的成長には目を見張るものがあります。

かつて人気を博した「アタックナンバー１」というアニメの主題歌をふと思い出しました。歳を重ねると、最近の歌詞はすぐ忘れるのに、大昔のことはなぜか脳裏に浮かぶものです。

One for all, All for one.　№82

R5. 9.27　「彼岸会」

９月の仏参行事は「彼岸会」です。お彼岸とは、３月の「春分の日」と９月の「秋分の日」の各々前後３日間を合わせた計７日間を言います。「彼岸」は極楽を指し、その極楽は西方にあると経典で教えられ、極楽あるいは先祖をしのぶ日として定着しました。

ご法話では、藤平 竜多先生が「たくさんある善いことから、お釈迦様が『六度万行』として取り上げた『①親切にすること、②約束を守ること、③苦しみに耐えること、④目標達成に向かって努力すること、⑤心を静めて反省すること、 ⑥この五つをまとめて人格を高めること』を是非皆さんも実践してください」とお話しされました。

ちなみに、お彼岸におはぎを供えるのは、「小豆の赤が邪気を払い、貴重な砂糖を使うことでご先祖様に感謝の意を伝えることから始まったと言われています」 お供えもせず、ご先祖様より先に食べてしまっている人はいませんか？

また、「ぼたもち」と「おはぎ」は同じものですが、漢字を使うとそれぞれ「牡丹餅」と「お萩」になり、「春分の日」の春と「秋分の日」の秋を代表する花名を使っているあたりにも風情を感じますね。

One for all, All for one.　№83

R5. 9.27　「生け花」

茶華道部の皆さんが、いつもきれいな生け花を校長室に飾ってくれます。秋を代表するキク科の花々でしょうか、見ていてとても心が和みます。

９月から１０月にかけては特に来校者も多く、この時期に合わせて飾ってくれた配慮にも感謝です。

春の花々は彩り豊かな華やかさを持つイメージがありますが、秋の花々には落ち着きと優雅さを兼ね備えた品格があります。いずれも季節感と調和し、見る人に活力と癒しを与えてくれます。本当に有り難うございます！

One for all, All for one.　№84

R5. 9.29　「秋季大会が開幕」

高野連「秋の大会」がスタルヒン球場を会場に開幕しました。本校は初戦の先行、支部のトップバッターでしたので硬さの残るスタートになるかと思いましたが、幸先よく先取点を取るなど新チームに相応しい伸び伸びとしたプレーが随所に光りました。

高校野球はなぜこんなに人を惹きつけるのでしょう。礼節、直向きさ、粘り強さ、チームワーク、集中力、心理戦、かけ引きなど要素は数多くありますが､チームメイトを思いやったり、対戦相手の讃えたり、周囲への感謝の気持ち伝えたりする表現が、具体的で分かり易いスポーツだからかもしれません。

それが、見る人に「理想の人間像」として映るのだと思います。それだけに、野球部員には全ての行動において模範的であって欲しいと期待してしまします。

One for all, All for one.　№85

R5. 9.29　「オープンスクール」

中学３年生の皆さんを対象にオープンスクールを実施しました。学校施設見学や体験講座を通して、少しでも龍谷高校の魅力に触れてもらえれば幸いです。

吹奏楽、合唱、書道各部のコラボによるオープニングから、司会進行、生徒引率に至るまで在校生が担ってくれました。

また、会場設営や後片づけも部活動の皆さんが手際よく行ってくれるなど、本当に頼もしい限りです。

先輩方の主導に、来校された中学生の皆さんもとてもリラックス出来たのではないでしょうか。